

## 平成20年度第3回外国人児童生徒教育検討会議【概要】

平成21年2月9日（月）

三重県総合教育センター 第4講義室

### ○外国人児童生徒への支援について

ー経済不況による外国人児童生徒を取り巻く環境の変化に対応した取組ー

- ・不就学をさせないための就学支援の取組
- ・教育への支援を受けるための企業への働きかけ 等

※ワーキング委員と検討会議委員で構成する小グループの報告

#### 【桑名市・桑名市教育委員会・四日市市教育委員会】

- ・桑名市、四日市市ともに、外国人登録窓口と教育委員会の就学窓口が連携し、就学支援の取組を行っている。
- ・桑名市では、今年からブラジル人学校との連携をとるようになった。

#### 【四日市市教育委員会・鈴鹿市・鈴鹿市教育委員会】

- ・鈴鹿市についても、外国人登録窓口と教育委員会の就学窓口が連携し、就学支援の取組を行っている。
- ・ブラジル人学校を退学した子どもについては、行方がつかみにくい。ブラジル人学校との連携が必要。
- ・今後のことになるが、民生委員のような役割をはたす外国人の方（仮称：外国人住民アドバイザー）が配置されると、不就学の子どもたちの早期発見につながると考えている。

#### 【亀山市・亀山市教育委員会】

・外国人登録の際に就学年齢の子どもをもつ保護者に対して教育委員会においてもきてもらい、学校の説明をしている。教育委員会の目の前に亀山西小学校や亀山中学校があるので、年齢に応じて学校につないでいく。入学案内の返事がないところについては、絶対数が少ないので、当該校の教頭先生と自分が訪問している。

- ・入学に関わり、中古品等（制服やジャージなど）もらえるものがないかという相談があった。

#### （津市・津市教育委員会）

- ・担当窓口が一本化できないと、難しい。
- ・状況把握については、学校が把握している部分もあるが学校数が多いので、それと平行して、国際交流室に相談にきた人などの情報交換をすることによって、数の把握もしやすいのではないかと。外国人学校との連携をもち、人権教育課と国際交流室が聞き取りを行った。10月1日に68人いたのが、2月2日には23人に減ったとのこと。公立学校には22人が行くことを聞いたが、実際に転入したかどうかは不明である。公立学校でもお金がかかるということで尻込みしている方もいるらしい。学校単位でバザーなどをしてお古を売っている学校もある。市としても支援することが必要であると思うが、こういうことを一括して対応していくところを設置する必要がある。

#### （伊勢市・松阪市・松阪市教育委員会）

- ・松阪市についても、外国人登録に来たら、教育委員会へも連絡してもらっている。ブラジル人学校をやめるときに、情報を市にくれれば対応も可能である。公立学校をやめるときもそうであるが、県として情報のやりとりなどの対応はできるものはないのか。

(小中学校教育室：室長)

- ・今、言ってもらったような市町やブラジル人学校との連携を図るような事業を考えている。

(名張市・伊賀市・伊賀市教育委員会)

- ・転入や編入の際には、教育委員会へ連絡が来るようになっており、連携がとれている。
- ・平成17年度に不就学の調査をしているが、ひび変化しているので、地域のネットワーク等を使って情報を得て就学を進めている。しかし、中3ぐらいだと難しく、前向きに話が進まないこともある。就学促進委員のようなものをおいて年間を通してつながりを作りながら調査していく必要がある。情報が入ってくればつながりを持ちながら色々な取組はできるが、情報が入ってこないと難しい。

(司会)

- ・不就学の早期発見について、鈴鹿市さんの言っていた外国人住民アドバイザーについてもう少し詳しく教えてください。

(鈴鹿市教育委員会)

- ・外国人の方が集住している団地等があるので、長くすんでいる外国人の方でそういう役目を果たしてくれる方がいてくれると、ネットワークを持っていると思うし、公立学校やブラジル人学校との連携もスムーズになるのではないかと考えている。

(小中学校教育室：副室長)

- ・不就学の問題は従来からあったもので、長期的に対策を考えていく必要がある。
- ・例えば、帰国を理由に退学した子が本当に帰国したのかどうかなど、知りたいところだが情報を得るのが難しい。情報が不明瞭になってしまうのを引き留めておく方法はないか。

(鈴鹿市)

- ・2月1日の住居地で給付金を給付するとのことで、登録をきちんとする外国人が若干増えている。

(国際室：副室長)

- ・ローラー作戦で把握することも必要である。
- ・事業を活用しながら把握していく。

(鈴鹿市)

- ・市内のことは分かるけど、市外に転出したりすると、市単位では分からない。県で取り組む方が妥当ではないか。

(国際室：副室長)

- ・外国人登録がされてないと把握できない。まずは、外国人登録の状況に基づいて調査しなければならない。市町で把握してもらう必要がある。

(司会)

- ・国際室で作成してもらっているキャリアガイドについて意見があればお願いします。

(津市)

- ・外国人のお子さんにとって、非常にありがたい。目標が持ちやすく、活用できる。
- ・ルビが抜けているところなどがあった。

## ○「外国人児童生徒に係る初期適応指導教室」の成果と課題

### 【伊賀市教育委員会】

- ・ひらがなの読み書き、算数・数学、生徒の状況に応じて英語の学習を実施。
- ・保護者との教育相談の実施。
- ・初期適応指導教室から在籍校へ戻ったときの連携が必要。

### 【松阪市教育委員会】

- ・2年目は、スタッフの充実を図った。(コーディネーター1名、指導員3名、協力員(母語スタッフ)4名、ボランティア約20名)
- ・地域においても児童生徒の宿題の支援を行った。(ボランティア)
- ・ある程度は日本語が理解できるようになっているが、まだまだ学習について行けない部分がある。
- ・いっぽ教室に通えない児童生徒への対応が課題。

### 【津市教育委員会】

- ・広い地域をどうカバーするのが課題。今年度、公民館等を利用して2箇所開設したが、カバーしきれていない。
- ・初期適応指導教室と学校との連携を深めて行く必要がある。教員との連携会議の持ち方等を考え進めていきたい。

### 【亀山市教育委員会】

- ・初期適応指導を在籍が集中している3校で実施。水曜日の午後、ボランティアによる補充的な取組も実施。

### 【鈴鹿市教育委員会】

- ・国際教室が設置されていない学校に対して、学校から市への申請により、適応指導教室を設置。
- ・急な生徒指導上の問題や児童生徒や家庭からの相談にも、家庭訪問をしたりして支援している。
- ・全市的に初期的な適応指導を必要とする児童生徒をカバーする体制が整えられた。また、各学校で初期適応指導教室を開設するので、終了したらスムーズに学校生活に入っていける。
- ・国際教室設置校における初期適応指導がまだまだ不十分。また、外国人児童生徒のケース会議についても内容を充実させる必要がある。

### 【四日市市教育委員会】

- ・「いずみ教室」に通えない児童生徒の在籍する学校に対し、「いずみ教室」のカリキュラムの紹介や適応指導員の派遣を実施。

- ・特別支援が必要か、初期適応指導が必要かの見極めが必要。
- ・いずみ教室で自信を付けることで、学校へ戻ってからの学習意欲がずいぶん違う。戻った学校との連携が必要。
- ・学習言語を獲得するには、日本語指導の免許を持っている専門的な方が、日本語を教えていくシステムを構築することが必要。

#### 【桑名市教育委員会】

- ・小学校低学年の児童は拠点校に通ってくることができず、各学校への巡回指導を実施している。そのため、時間をかけて初期指導を実施することができていない。
- ・拠点校で初期指導を実施するには、経済面の負担や小学校低学年は一人で通えないなどの問題がある。

#### ○三重県国際交流財団から

2月5日、国際交流財団の理事会を中心に多文化共生教育センターの事業として、四日市市の「いずみ教室」と笹川西小学校を訪問した。笹川西小学校の一般教室と国際教室（アミーゴ）及び「いずみ教室」を見学した。

「いずみ教室」とアミーゴの連携、複数あるアミーゴの教室間の連携、アミーゴと一般教室の連携が非常に旨くつながっていることが分かった。また、一般の在籍学級では、先生が非常に簡潔で分かりやすい日本語を使って指導されていた。

どこの学校でもどの先生でも、日本語指導の基礎が学べるようなことを来年度考えている。

#### ○研修指導室専門研修グループから

総合教育センター主催で日本語指導実践講座を3日間開講している。初めて外国人児童生徒を担当した先生方が参加しやすいように、土曜日や夏休みに講座を設定している。

来年度は、さらに具体的に進めていけるような講師の先生を招聘したいと考えている。第1回、第2回は実践的な内容を取り入れていきたいと考えている。